

# 全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（1年）

## 今年度の分析

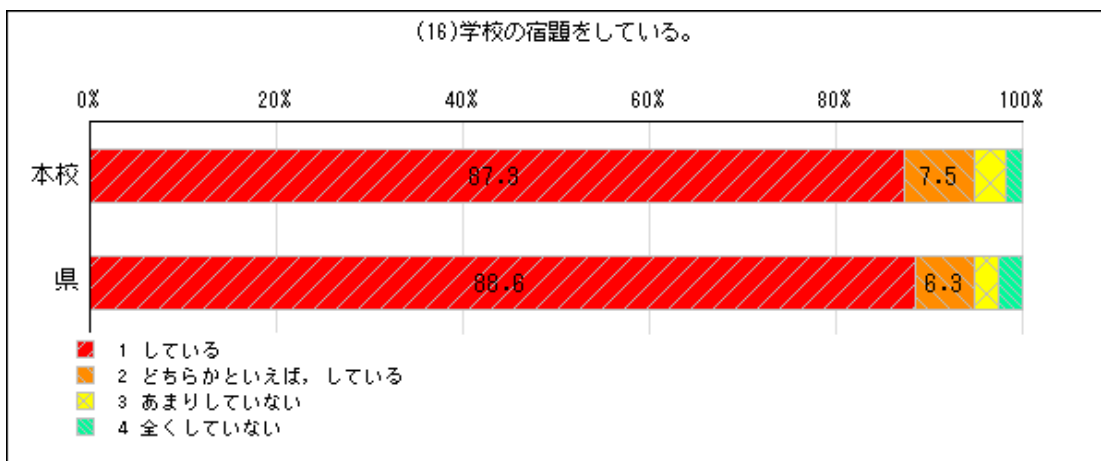
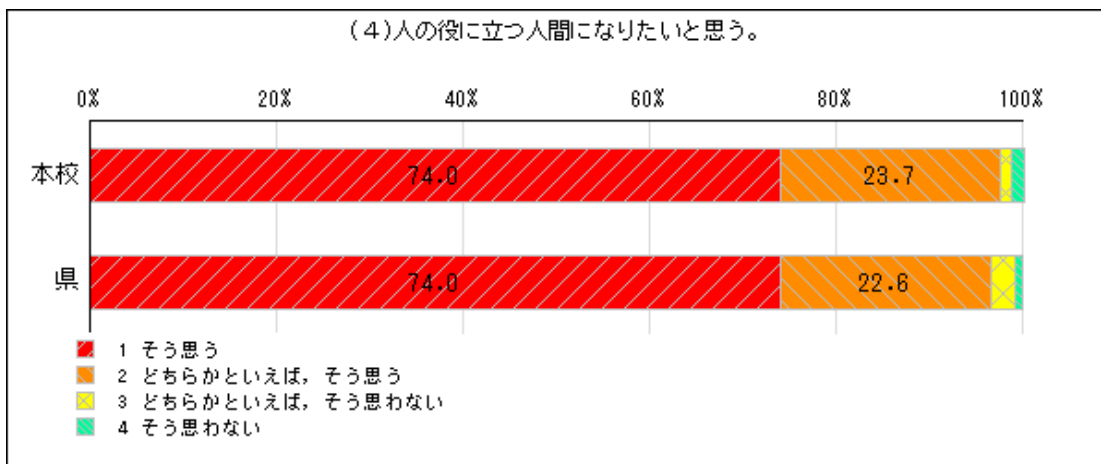
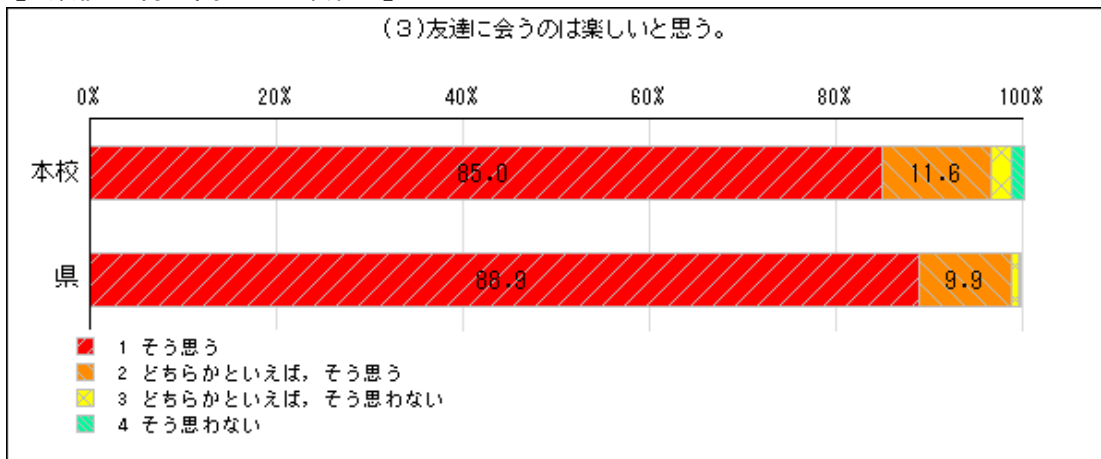
全体の概要		
国語	全体の正答率は、県平均をやや下回っている。観点別では、「話す・聞く」「書く」は県平均とほぼ同じ程度、「読む」「知識・理解・技能」は県平均を大きく下回っている。	
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項	
聞く	どの設問も県平均と同程度の正答率である。	場面や目的に応じた話す・聞くの力の育成を授業の中に取り入れ、生活の中に活用できるようにしていく。
書く	リーフレットのタイトルを選んだ効果を考える設問は、県の正答率を特に下回っている。	表現の工夫や意図がわかるように、まとめたり要約したりする学習を取り入れる。
読む	全体的に県平均より低い。特に、複数の条件を踏まえて指示通りにまとめる設問は、県平均を大きく下回っている。	読み取った内容を、さまざまな指示に従って書き分けるような学習を取り入れる。
知識・理解・技能	漢字の読み書きの中で県を下回る設問がある。また、文節の働きの理解が弱い。	漢字の読み書きについては日常的に取りあげて理解を深める。また、文の成分の学習に力を入れる。

## 今年度の分析

全体の概要		
数学	全体の正答率は県平均をやや下回っている。到達度分布を見てみると「要努力」の生徒の割合が多く、「十分達成」の生徒の割合が低くなっている。内容・領域別に比較をしたときは「図形」が県平均とほぼ同じである。また「量と測定」は県平均よりやや低くなっている。一方「数と計算」「数量関係」は県平均を大きく下回っている。	
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項	
考え方	県平均に比べて大きく下回っている。言葉や式を使って説明をする問題の正答率が低く、無解答率が高い。	授業中に考え方を発表する場面を設定する。また、定期テストでも記述式の問題を出題する。
技能	県平均に比べてやや下回っている。グラフを読み取る問題の正答率が低い。	本校の取り組みのすきるアップテストの実施により、基本的計算能力の定着を図るとともに、課題や小テストを利用して多くの問題に取り組みさせる。
知識・理解	県平均とほぼ同じである。1より小さい数で割ると数が大きくなるなどの定着ができていない。	授業の中で用語の確認を行い、数学的表現を使って説明することで定着を図る。

# 全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（1年）

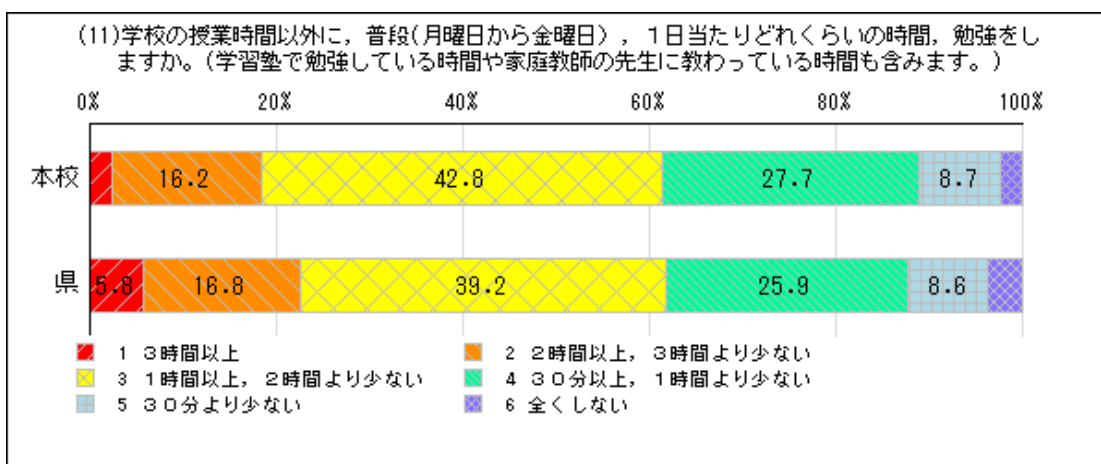
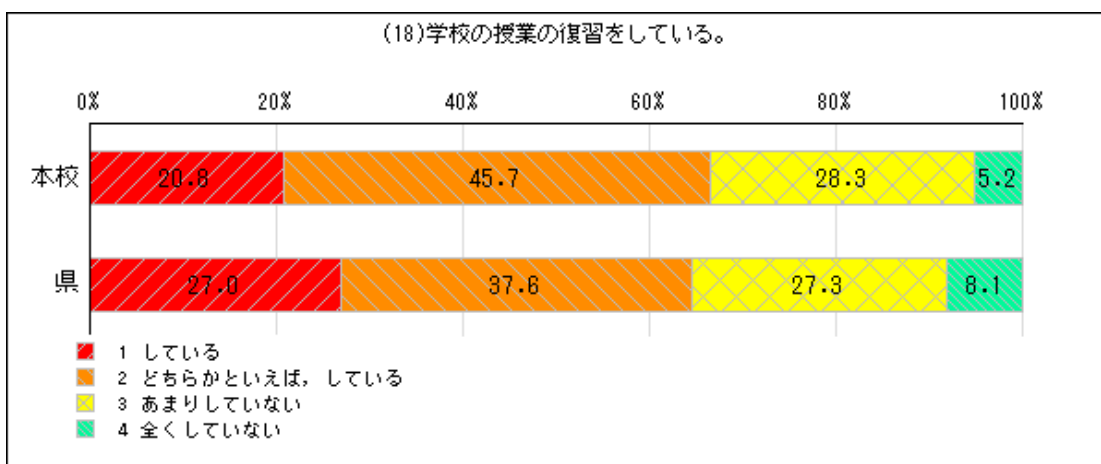
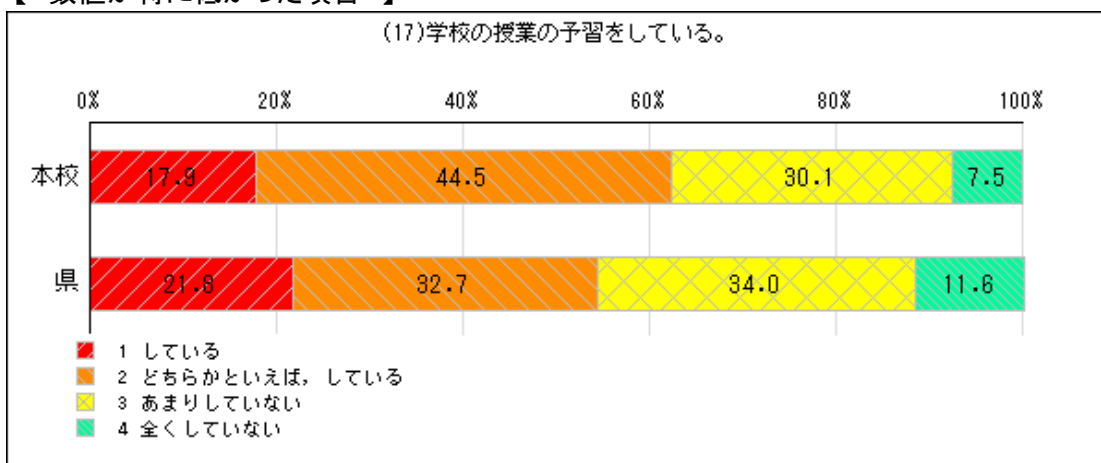
## 【 数値が特に高かった項目 】



### 分析と改善に向けた具体的取り組み事項

良好な人間関係や将来に向けての意識は高い。  
 学校からの与えられた課題に対して意欲的に取り組んでいるので、自主的な学習に発展させる目標を立てさせる。

【 数値が特に低かった項目 】



分析と改善に向けた具体的取り組み事項

自主的な学習が少ないので、進路や将来の目標を明確にさせ、学習意欲を高める必要がある。

# 全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（2年）

## 今年度の分析

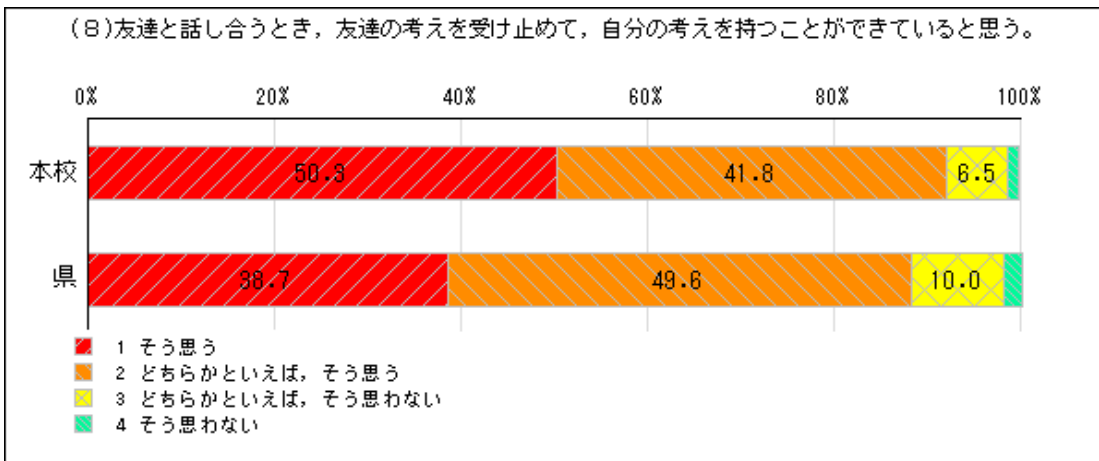
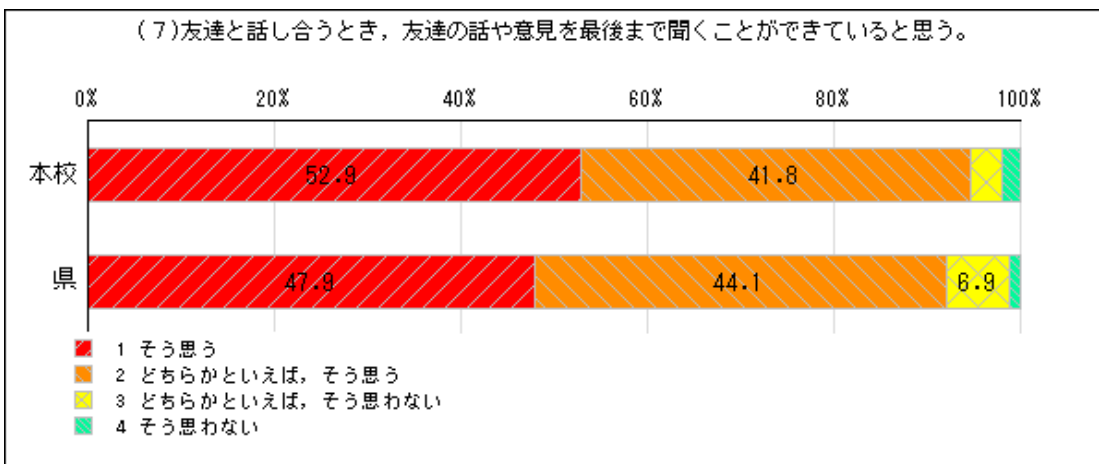
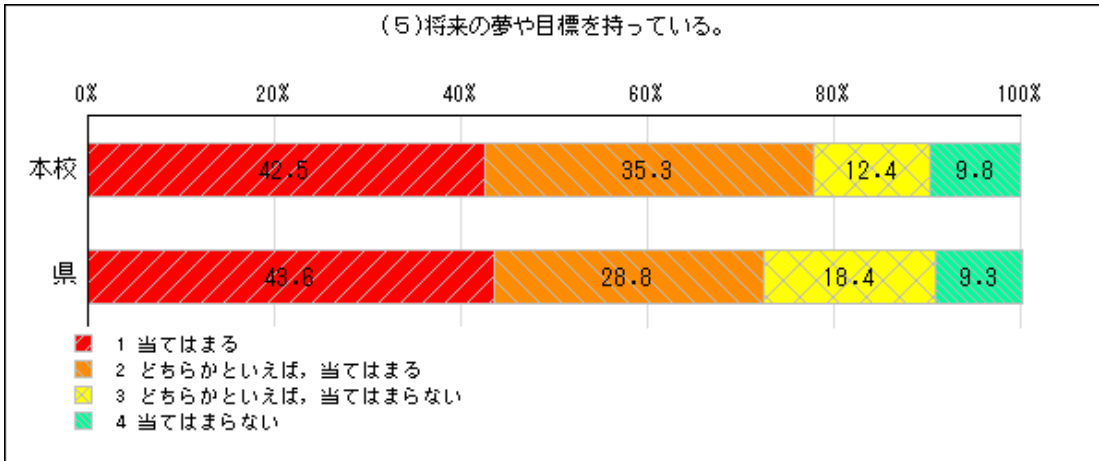
全体の概要		
国語	本校の全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。「話す・聞く」「書く」「読む」の3観点においてはそれぞれ県平均を上回っているが、「知識・理解・技能」の点で県平均を下回っている。	
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項	
聞 話 く す	文を適切に書き換える設問が県平均をやや下回っており、特に設問の内容が理解できていない解答が多く見られる。	設問の意図を理解できるような学習や、場面に応じた言葉の選び方の学習に力を入れる。
書 く	自分の言葉で考えを書く問題が2つ、県平均を下回っており、条件を満たしていない解答が多いが、無解答率は低い。	設問の意図の理解という点で他観点と同じ原因が挙げられる。条件や指示に従い書く力をつける学習を行う。
読 む	全体的には県平均点より高いが、活用力を問う問題で県平均をややしたまわっており、条件に従って書けていない答えが多い。	読めてはいても書けないというかたちで、活用力の低さが問題となる。他観点と関連づけ、書く力に繋げていく学習を取り入れる。
知 ・ 識 ・ 理 解	4つの観点の中で、唯一全体が県平均を下回っており、その中でも漢字の書きが県平均を大きく下回っている。	漢字の書き取りについては日頃の学習の中に、できるだけ取り入れ、活用ができるようにしていく。

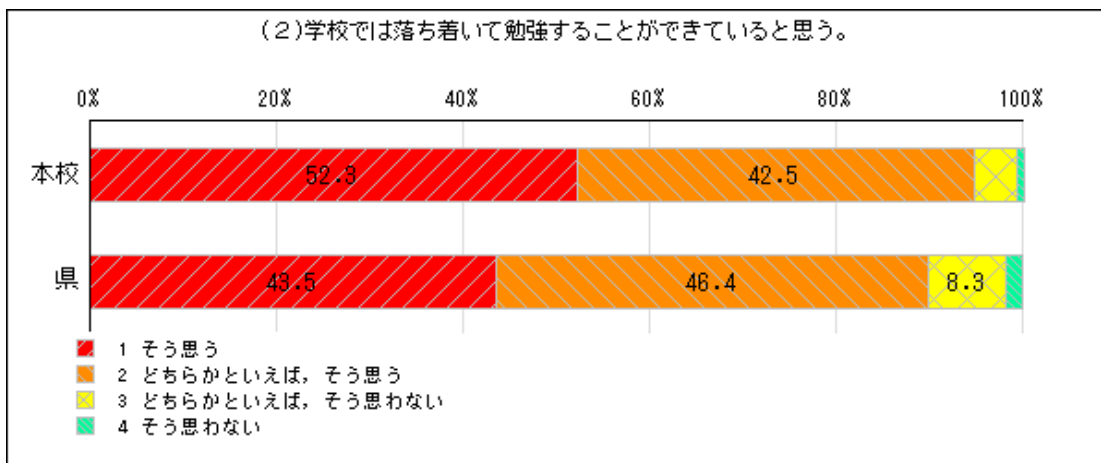
## 今年度の分析

全体の概要		
数 学	全体の正答率は県平均をやや上回っている。到達度分布を見てみると「十分達成」の生徒の割合が多く、「要努力」の生徒の割合が低くなっている。 内容・領域別に比較をしたときは「数と式」「関数」「資料の活用」で県平均をやや上回っており、「図形」では大きく上回っている。	
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項	
考 え 方	県平均をやや上回っている。すべての問題で、県平均と同じか上回る結果になっている。	授業中に考え方を発表する場面を設定する。また、定期テストでも記述式の問題や批判的に考えさせる問題を出題する。
技 能	県平均をやや上回っている。県平均を上回る問題が多い中で、不等式で表すことを苦手としている傾向が見られた。	本校の取り組みのすきるアップテストの実施により、基本的計算能力の定着を図るとともに、課題や小テストを利用して多くの問題に取り組みさせる。
知 識 ・ 理 解	県平均を大きく上回っている。すべての問題で、県平均を上回る結果になっている。	授業の中で数学用語の確認を行い、数学的表現を使って説明することで定着を図る。

# 全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（2年）

## 【 数値が特に高かった項目 】

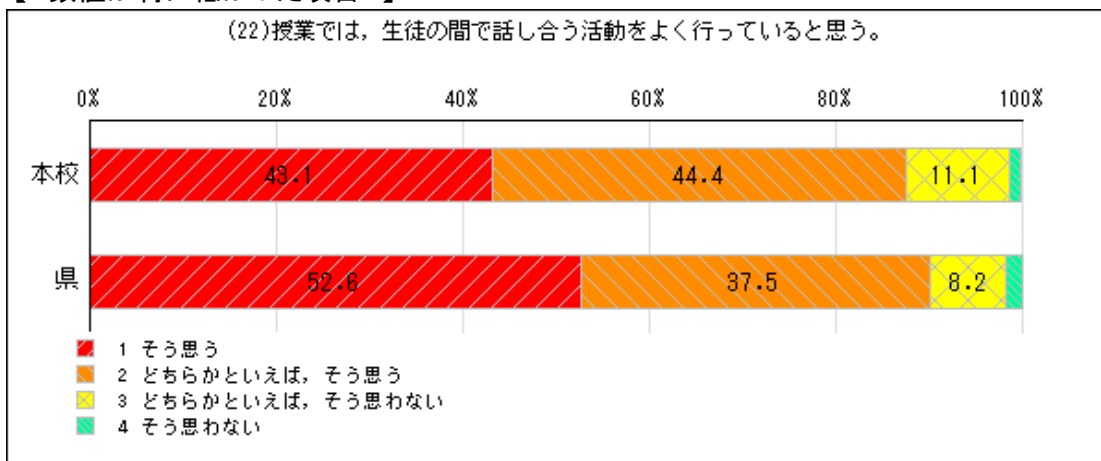




分析と改善に向けた具体的取り組み事項

学校生活が落ち着いており、諸活動に取り組んでいる姿がわかる。  
友達関係においても、ますます良好な関係を築けている。

【 数値が特に低かった項目 】



分析と改善に向けた具体的取り組み事項

自ら考えて自分の意見を発表し、ともに深め合っていく活動がやや劣っていると思われる。  
様々な活動に話し合いの場をもっと取り入れていく必要がある。

# 全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（3年）

## 今年度の分析

全体の概要	
国語	全体の正答率は、県をやや下回り、全国を大きく下回っている。観点別では、「話す・聞く」「書く」「読む」は県平均とほぼ同じであるが、「知識・理解・技能」は大きく下回っている。
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
<p>話し くす</p> <p>話し合いの流れを踏まえて自分の考えを書く設問が特に低く、県に対してやや下回り、全国に対して大きく下回っている。</p>	<p>話し合いの流れや内容をきちんと理解するだけでなく、条件に応じて自分の考えを構築する段階まで学習を深める。</p>
<p>書 く</p> <p>設問に対して自分の考えは書けているが、指示された条件を踏まえて答えることができていない。</p>	<p>複数の条件を踏まえて書きまとめる学習を取り入れる。また、条件そのものの理解にも力を入れる。</p>
<p>読 む</p> <p>文章の要旨をとらえる設問の正答率が低く、県に対してやや下回り、全国に対して大きく下回っている。</p>	<p>キーワードを的確にとらえさせ、接続表現等にも注意させながら、文章を読み取らせていく。</p>
<p>知 識 ・ 理 解 ・ 技 能</p> <p>語の一部を省いた表現の説明ができていない。全国に対して大きく下回っている。</p>	<p>略語の意義や効果について理解を深め、生活の中で活用できるようにさせる。</p>

全体の概要	
数学	全体の正答率は県平均とほぼ同じである。内容・領域別に比較したときは「数と式」「図形」「資料の活用」は県平均とほぼ同じである。一方、「関数」は県平均を大きく下回っている。
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
<p>考 え 方</p> <p>県平均とほぼ同じである。ヒストグラムや図形の証明の問題の正答率は県平均に比べてやや低い傾向にある。</p>	<p>授業の中でも自分の考えをグループで共有する場面を設定する。 また、定期テストでも記述式の問題を出題する。</p>
<p>技 能</p> <p>県平均とほぼ同じである。反比例の問題の正答率は県平均に比べてやや低い傾向にある。</p>	<p>基本的計算能力の定着を図るために、課題や小テストを利用して多くの問題を取り組ませる。</p>
<p>知 識 ・ 理 解</p> <p>県平均とほぼ同じである。反例の意味を理解しているという問題の正答率がやや低い傾向にある。</p>	<p>授業の最初に振り返りを行う。 また、授業の中で数学用語の確認を行い、数学的表現を使って説明することで定着を図る。</p>

全体の概要	
英語	無解答率は全体的に低い。何かしら書こうとする姿勢が見られる。 読んだり、聞いたりして、自分の考えを英語で書くことを苦手とする生徒が多い。

分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
聞くこと	日常的な話題であれば、簡単な語句や文で言われたことは、大まかな内容を聞きとることができる。	➡	聞いたことで、キーワードをメモして概要をつかむ活動を行う。また、それを簡単な英語で書き直させる取り組みなど工夫をする。
話すこと	教科書の基本文や英作文で書かせた事項については話せるが、授業で慣れていない表現が出てくると対応できない。	➡	帯学習でやり取りをしながら、スピーキングテストで確認をする。
読むこと	読んで理解し、それに対して意見を持ち、英語で表現することに課題がある。 内容理解だけであれば大まかに読み取ることはできている。 話題になっていることを知らない生徒	➡	日頃の課題で、教科書ではあつっていないトピックの簡単な文章を読ませる。
書くこと	基本的なこと、教科書やワークに似た形式の問題は解けている。自由に書く問題や訓練されていない問題形式に対応できていない。	➡	まず、基本文をしっかり書けるようにする。書かせる前に、ペアやグループで考えを共有させ、自分の考えを深める機会を作る。

## 全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（3年）

### 【 数値が特に高かった項目 】

- ・朝食を毎日食べていますか。

分析と改善に向けた具体的取り組み事項
生徒の86.1%が、毎日朝食を食べている。全く食べていないのは0.6%で1名だった。学級、部活動や昼食時の生徒会の放送などで、食事をとることの重要性を頻繁に呼びかけている。

### 【 数値が特に低かった項目 】

- ・1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。

分析と改善に向けた具体的取り組み事項
佐賀県全体で当てはまると解答した生徒の割合が36.3%に対し、本校は29.7%にとどまっている。どちらかといえば当てはまらないの割合は本校が高い割合である。 低学年時から、そういった機会を設定する必要がある。